



International Network
of Museums for Peace

ジェネラル・コーディネータの デスクから

2018年10月15日

第4号



安齋育郎

立命館大学国際
平和ミュージアム名誉館長

INMP's new address: inmpoffice@gmail.com

New website: click [こちら](#)

京都三条コミュニティ放送「ラジオ・カフェ」の番組 「安齋育郎平和・原発独り言」

私は 2003 年に日本で初めて開設された NPO 放送局である京都三条コミュニティ放送 (FM797、愛称「ラジオ・カフェ」) で「安齋育郎平和・原発独り言」という番組もっています。スタジオは内外の観光客でにぎわう京都市の中心部にあります。



ラジオ放送中の安齋育郎

この番組の中で、私は INMP (平和のための博物館国際ネットワーク) のことを含めて、平和博物館の活動についても紹介しています。最近、INMP の事務局がオランダのハーグから、京都の立命館大学国際平和ミュージアムに移ったことについても紹介しました。

9月14日には放送局長の松岡千鶴さん担当の長寿番組「京からグリーン・コミュニケーション」にもゲスト出演し、国際平和博物館運動について紹介する機会もありました。とても感謝しています。



放送局長の松岡千鶴さん

2020 年開催予定の第 10 回国際平和 博物館会議の準備が進行中です

9月28日、国際平和ミュージアムの執行部会議が開かれ、2020年日本開催が検討されている第10回国際平和博物館会議について大学への提起内容を論議しました。会議の中で、開催時期としてはパラリンピックと秋の観光シーズンの間の2020年9月中旬開催案が示唆されました。

もともと私は秋の観光シーズンとクリスマス・シーズンの間の2020年12月開催の可能性を考えていましたが、12月はまだ大学はセメスターの途中で、国際会議向けに多くの教室を提供することが困難です。一方、9月中旬なら夏季休暇の終盤で、部屋も確保しやすいメリットがあります。

メイン・テーマとしては「次世代への記憶の継承と平和博物館の役割」が概ね支持されました。

詳細については決まり次第お知らせします。

ペイパル会費を納入される方は
下の口座をご利用下さい。
INMP PayPal (ビジネス・アカウント)
Name: INMP OFFICE
INMP email address:
inmpoffice@yahoo.co.jp

INMP 会員になるメリット

INMP 総務理事

安斎育郎

私は時々「INMP に入るとどんなメリットがありますか？」と聞かれます。

(1) あなたの（あなたの博物館の）国際的な発信機能を強めます。

ニューズレターやウェブサイトや 3 年ごとの国際会議を通じて、あなたの国際社会への発信力強化のお手伝いをします。平和博物館の目的な多くの人々に平和のメッセージを届けることです。個々の平和博物館の年間来館者数は千人台～百万人台まで多様ですが、この惑星のには何十億人という人が住んでいます。INMP は会員や加盟館の発信機能を強めるお手伝いができることを期待しています。

(2) 会員・加盟館の国際的な協力関係を発展させます。

INMP は移動展を進めたり、博物館どうしの資料の貸し借りの橋渡しをしたり、平和博物館ツアーを進めたりすることを通じて、会員の協力関係の発展に役立ちます。

2017 年には日本の平和博物館の原爆関係の資料をオスロ（ノルウェイ）のノーベル平和センターに提供するために仲介の労を取りました。

(2) ウェブサイトや季刊のニューズレター、月刊の「ジェネラル・コーディネータのデスクから」、INMP 出版物、3 年ごとの国際会議などを通じて、さまざまな情報を獲得することが出来ます。

会員は上述のような媒体や機会を通して様々な情報に接することが出来ます。そのような情報はあなたの博物館の展示企画やワークショップの立案やリニューアルのために役立つでしょう。

(4) 国境をこえた平和博物館運動の発展に寄与することが出来ます。

INMP はまだ小さな NPO ですが、私は、私たちが協力し合って、直接的・構造的・文化的暴力を克服するための平和創造の努力の面で、疑いもなく人類史的な意義を持っていると確信しています。



これは私が最近友人あてに出した寄付のお願いの絵手紙で、平和博物館運動への協力を要請するものです。絵に描いた栗と柘榴はご近所の方から頂いたものです。

平和ミュージアムを拠点とする「平和友の会」がガイドとして活躍中



立命館大学国際平和ミュージアムを訪れた子どもたちを見送る「平和友の会」の会員

立命館大学の国際平和ミュージアムは、常設展に加えて世界報道写真展を開催中で、たくさんの参観者を迎えています。世界報道写真展は 1955 年に創設された世界報道写真財団がアムステルダムを拠点としている展開しているものです。立命館は毎年この時期に開催しています。

国際平和ミュージアムを拠点としている「平和友の会」は 100 人をこえるメンバーから成る市民ボランティア組織ですが、今もミュージアム・ガイドとして大活躍しています。

「友の会」はしばしば学習会を開催し、毎月「会報」を発行します。私は連載「世相裏表」を担当しています。国際平和ミュージアムは「平和友の会」の献身的な努力に深く感謝しています。

INMP の新しい通信手段が利用できます

INMP は新しいウェブサイト・システムを採用したのと同時に、会員間の新しい通信手段も採用しましたので、ご利用下さい。それは、

INMPMuseumsForPeace@groups.io

です。INMP の理念、目的、活動などに関心をもつ人ならどなたでも歓迎しますが、入会するかどうかは自由です。

この通信システムは互いに平和博物館を橋渡す情報の共有、研究報告、教育、会議のアナウンス、イベント、平和博物館に関する企画などに焦点を当てています。

まずは、

INMPMuseumsForPeace+subscribe@groups.io

にメールし、あなたのメール・アドレスを登録して下さい。あなたは世界中の INMP 会員や INMP の活動に関心をもつ人々となつながら、世界中の人々から情報を得、世界中の人々にメッセージを送ることが出来ます。

INMP のウェブサイトやこのグループ・コミュニケーション・システムについてもっと詳しい情報を得たい人は下の「INMP e-コミュニケーション・サポート・チーム」宛にメールして下さい。

inmp.ecommunications@gmail.com

チーム・メンバーがお応えします。



私のノートから

ヘルシンキから大阪への放射線レベルの変化

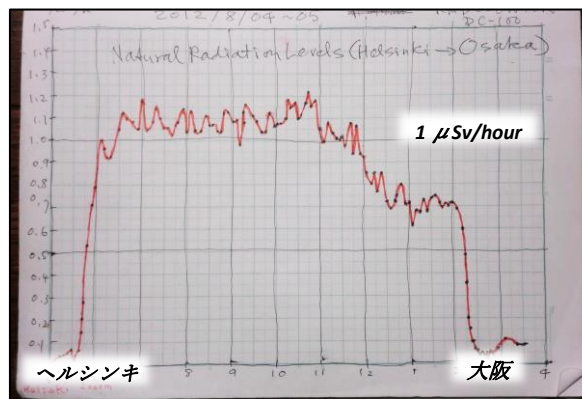
2012 年の 7 月～8 月、私は妻の喜美江さん、秘書の島野由利子さん、安齋科学・平和事務所研究員の谷川佳子さんとともに、スウェーデンとフィンランドを訪れる機会がありました。

スウェーデンのウプサラでは「ウプサラ平和の家」館長で INMP の理事でもあるジェスパー・マグヌッソンさんと会う機会がありました。



ウプサラ平和の家で解説するマグヌッソンさん

帰国のフライトの中で、私は寝ずに機内での放射線レベルを測定し続けました。飛行機が 1 万メートル以上に上昇するにつれて宇宙線のレベルが上がるため、機内の放射線レベルは 1 マイクロシーベルト/時位まで上昇しました。



約 10 時間、5 分おきに放射線を測定しました

私が長年通い続けているふくしまの「さくら保育園」の放射線レベルは屋内では 0.05～0.08 マイクロシーベルト/時程度、屋外では 0.10～0.15 マイクロシーベルト/時程度です。

安齋のアルバムから
65年前に在籍した
福島の小学校を訪ねて

1



2



3



4



5



写真説明

- 1 福島原発事故の1年後、私は65年前に在籍していた福島県二本松市の小学校を訪れました。私は1940年に東京で生まれましたが、4歳のとき空襲を逃れて福島に移住しました。学校長の小林淑人先生は歓迎してくれて、1947年の在籍名簿の中に私の名前を見つけました。
- 2 65年前に在籍した小学校の生徒と。
- 3 二本松南小学校は事故を起こした原発から約60キロのところにあります。放射性物質が校庭を汚染しましたが、私が訪れた時二本松市が大規模な除染工事を行っていました。
- 4 音楽室では子どもたちがモーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク：」を練習していました。
- 5 10歳の子どもたちがアコーディオンを見事に操り、ハーモニーを奏でていました。

市立博物館で



二本松の「提灯祭り」の山車。私が1944年から1945年に住んでいた頃、祭りに参加していました。山車の中では市民（子どもを含む）が太鼓を演奏していました。

「ジェネラル・コーディネータのデスクから」
について

このミニ・ニューズレターはINMP総務理事の安齋育郎が身の回りのあれこれを毎月書きつけるものです。お楽しみ下さい。